

文学研究科 博士課程前期課程

教育研究上の目的

文学研究科博士課程前期課程・修士課程は、人間の生き方やあり方を考究する総合的な人間学としての文学をはじめとする人文諸科学の真髄を理解し、かつ広範な知識を修得し、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる高度な研究能力及び職業能力を持った人材の養成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科博士課程前期課程・修士課程は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属研究科において定める専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文および修了作品(書道学専攻のみ)が審査のうえ合格と認められた学生に修士(日本文学・中国学・英文学・書道学・教育学)の学位を授与する。

1.

- (1) 人文諸科学の高度で専門的な学識を修め、5 専攻各々の専門に関わる深い知識を持ち合わせている。
- (2) 5 専攻各々が求める高度な専門技能を身につけ、それらをもって社会に貢献することができる。

2.

- (1) 5 専攻各分野における学習・研究課題について、幅広く専門的な知見をもとに、論理的に思考・考察・判断し、結論に至るまでの的確に表現し発信することができる。

3.

- (1) 5 専攻各分野における学修・研究課題を明確に意識し、それらに意欲をもって取り組み、その成果を生かす研究者・専門的職業人として積極的に社会に貢献することができる。
- (2) 多文化共生に関する諸問題について広く関心を持ち、東西文化の融合を探究することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科博士課程前期課程・修士課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 5 専攻それぞれに、修士論文作成を目標とする研究指導科目として演習科目を設け、研究指導教員が指導する。
- (2) 書道学専攻では、修了制作を目標とする研究指導科目として演習科目を設け、研究指導教員が指導する。
- (3) 日本文学・中国学・書道学の3 専攻においては特殊研究科目を、英文学・教育学の2 専攻においては特殊講義科目を設け、それぞれの分野の高度な専門知識を修得する。
- (4) 5 専攻それぞれに、各専門性を深め、学識の幅を広げるための関連講義科目を設ける。
- (5) 日本文学専攻の現職教員一年修了コースでは、一年間で修士論文を作成するための演習科目「課題演習」を設け、研究指導を行う。
- (6) 日本文学・中国学・書道学の3 専攻では、外国語科目（英語・中国語）を設け、外国語の文献を理解する語学力を養成する。
- (7) 英文学専攻では、関連講義科目として「研究方法論」を設け、研究の進め方やアカデミック・ライティングの指導を行う。

(8)教育学専攻では、全員必修の導入科目「教育総合研究」を設ける。

2. 教育方法

- (1)演習科目では、少人数による文献読解法及び研究法を基に、修士論文作成のための指導を行う。
- (2)特殊講義・特殊研究、及び関連の講義科目では、教員による講義を基に、教員と受講者相互の調査・研究の進展をはかる。
- (3)書道学専攻では、理論・実技（実作）の両面の指導を行う。

3. 評価方法

- (1)学位授与方針で掲げられた能力の達成状況を、文学研究科5専攻各々における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。
- (2)2年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文等の評価を行う。
- (3)各年度末に「大学院生研究活動報告—文学研究科—」を提出させ、評価の参考とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科博士課程前期課程・修士課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- (1)入学にあたり、5専攻各々における、高度で専門的な知識を習得することができる学力を有している。
- (2)5専攻各々が求める高度な専門技能を身につけ、それらをもって社会に貢献しようと志している。

2.

- (1)5専攻各々の分野における学修・研究課題を明確に意識し、その対応方策について思考・考察・判断し、それらを表現し発信することを目指している。

3.

- (1)5専攻各々における学修・研究課題を明確に意識し、それらに意欲をもって取り組み、幅広く学ぼうとする姿勢を有している。

文学研究科 博士課程後期課程

教育研究上の目的

文学研究科博士課程後期課程は、博士課程前期課程での教育内容をさらに深め、人文諸科学（日本文学・中国学・書道学）の真髄を理解し、かつそれに関するより広範な知識を修得し、新しい価値観を創造して人類文化の発展に寄与することができる高度な研究能力及びより専門的な職業能力を持った人材の養成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科博士課程後期課程は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属研究科において定める専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士(日本文学・中国学・書道学)の学位を授与する。

1.

- (1) 日本文学・中国学・書道学の各分野において、より高度で専門的な学識を修め、深い知識を持ち合わせている。
- (2) 日本文学・中国学・書道学の各分野が求める高度な専門技能を身につけ、それらをもって積極的に社会に貢献することができる。

2.

- (1) 日本文学・中国学・書道学の各分野における学修・研究課題について、幅広く深い専門的な知見をもとに、その対応方策について論理的に思考・考察・判断し、結論に至るまでの的確に表現し発信することができる。

3.

- (1) 日本文学・中国学・書道学の各分野における学修・研究課題を明確に意識し、それらに意欲的に取り組み、その成果を生かす高度な研究者・専門的職業人として積極的に社会に貢献することができる。
- (2) 多文化共生に関する諸問題について広く関心を持ち、東西文化の融合を探究することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 日本文学・中国学・書道学の3専攻のそれぞれに、博士論文作成を目標とする研究指導科目として演習科目を設け、研究指導教員が指導する。
- (2) 日本文学・中国学・書道学の3専攻のそれぞれに、特殊研究と関連科目の講義科目を設ける。

2. 教育方法

- (1) 演習科目では、前期課程における個々の研究を更に深め、学界に通用する研究論文、博士論文作成を目指し、研究指導教員が指導する。
- (2) 特殊研究と関連科目の講義科目では、研究に必要な文献読解能力を養成し、各分野における高度な専門的知識を修得する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の達成状況を、文学研究科3専攻各々における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。
- (2) 3年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文の評価を行う。
- (3) 各年度末に「大学院生研究活動報告—文学研究科—」を提出させ、評価の参考とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- (1) 博士課程前期課程・修士課程レベルにおいて修得した知識・理解を基に、日本文学・中国学・書道学の各分野において、さらに高度な専門性を修得しようとする意欲がある。
- (2) 日本文学・中国学・書道学の各分野が求める高度な専門技能を身につけ、それらをもって広く社会に貢献しようと志している。

2.

- (1) 日本文学・中国学・書道学の各分野における学修研究課題を明確に意識し、その対応方策について適切に思考・考察・判断し、それらを明晰な論理によって表現し、広く発信することを目指している。

3.

- (1) 日本文学・中国学・書道学の各分野が求める高度な専門能力を身につけ、その成果を国際的水準において実現し、広く発信していくことを目指している。

文学研究科 日本文学専攻 博士課程前期課程

教育研究上の目的

文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を身につけた、社会に貢献できる人材の養成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（日本文学）の学位を授与する。

1.
 - (1) 日本文学に対する深い知識を修得しており、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的に理解することができる。
2.
 - (1) 古代から現代に至る日本語に対する知識を有し、的確な言語を使用することができる。
 - (2) 古典および近現代文学に対して豊かな鑑賞力を有し、批評・分析することができる。
3.
 - (1) 専門的研究者として、建学の精神を踏まえ、積極的に多方面で活躍することができる。
 - (2) 専門性を活かした職業人として、積極的に多方面で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成しています。

1. 教育内容

- (1) 前期課程では、日本文学（上代から近現代まで）・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、2年間の教育課程として編成している。
- (2) 演習科目と講義科目としての特殊研究科目とに分け、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、他は、演習科目と有機的に関連づけながら、専門的な知識と豊かな教養を身につける科目として編成している。
- (3) 文学・テキストを対象に研究を進め、言語・人間・世界（社会）の相関を根本から問いながら、高度な思索力・学術論文作成能力・教育力等を養成し、2年次には、個々の研究テーマに即して専門性に満ちた修士論文として結実させるよう指導を行う。

2. 教育方法

- (1) 演習科目は少人数による演習形式の授業である。学生に課題を与え、授業内において適切な指導と解説を行う。
- (2) 講義科目は学問研究に必要な研究方法の教示と、具体的な研究テーマに沿った講義・解説を行う。適宜、テスト・レポートなどを提出させる。
- (3) 演習科目、講義科目とも、インタラクティブな教育を実施する

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の達成状況を、日本文学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。

(2) 2年間の総括的な学修成果として、複数教員による修士論文の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

(1) 学部で培った基礎学力・基礎技能を活かして、それを既存の学力・技能と結びつけ、より高次の学力・技能として定着させることができる。

2.

(1) 幅広い教養と広い視野に立脚した研究能力を身につけ、柔軟な思考ができる。

3.

(1) 常に広い観点から現代社会、文化の諸問題を究明しようとする強い意志をもっている。

日本文学専攻博士課程前期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
前期一般方式	筆記試験 (外国語、専門)	●	●	
	面接試験		●	●
前期社会人方式	小論文	●	●	●
	面接試験	●	●	●
前期推薦方式	書類審査	●		●
	面接試験	●	●	●

文学研究科 日本文学専攻 博士課程後期課程

教育研究上の目的

文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、自立した日本文学研究者及び高度な専門業務従事者を養成し、もって、社会に貢献できる人材の育成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（日本文学）の学位を授与する。

1.
 - (1) 日本文学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的にとらえることができる。
2.
 - (1) 古代から現代に至る日本語に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、的確な言語使用を行うことができる。
 - (2) 古典および近現代文学に関する高度な分析能力を持ち、専門的研究者として優れた研究ができる。
3.
 - (1) 専門的研究者として、建学の精神を踏まえ、積極的に多方面で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成しています。

1. 教育内容

- (1) 後期課程の科目編成は、前期課程と同様、日本文学・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、3年間の教育課程として編成している。
- (2) 特に、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、前期課程における研究をさらに深め、より専門的で高度な研究へと進展させられるよう科目編成している。
- (3) 専門的で高度な研究能力・教育能力等を養成し、学界に通用する緻密かつ斬新で独創性のある博士論文として結実させるよう指導を行う。

2. 教育方法

- (1) 演習科目は少人数による演習形式の授業を行う。博士前期課程での研究成果をふまえ、より高次の指導を実施する。
- (2) インタラクティブな教育を行う。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針に掲げられた能力の達成状況を、日本文学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。
- (2) 3年間の総括的な学修成果として、複数教員による博士論文の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
 - （1）博士課程前期課程・修士課程レベルにおいて修得した学力・技能を基礎に、さらに高度な専門知識・技能を身につけようとする目的をもっている。
2.
 - （1）研究領域の拡大に努め、学際的・総合的な視野から学問研究に臨むことができ、幅広い教養と広い視野に立脚した研究能力を身につけ、柔軟な思考ができる
3.
 - （1）国際的な水準で広く活躍することをめざして、常に広い観点から現代社会、文化の諸問題を究明しようとする強い意志をもっている。

日本文学専攻博士課程後期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
後期一般方式	筆記試験 (外国語)	●		
	面接試験		●	●

文学研究科 中国学専攻 博士課程前期課程

教育研究上の目的

文学研究科中国学専攻博士課程前期課程は、文学部中国文学科の上位に位置する教育課程を擁し、中国の文化を専門的に勉強することによって、その専門知識と研究能力を修得することを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（中国学）の学位を授与する。

1.
 - (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において深い知識・技能を有するにとどまらず、関連する分野においても幅広い知識を身につけている。
 - (2) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野や中国語の文献を読解し、的確に言語を使用することができる。
2.
 - (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において自ら発見した重要な課題を多角的かつ批判的に考察することができる。考察により得られた知見について、その意義や位置づけを様々なかたちで的確に表現することができる。
3.
 - (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において関心と問題意識をもちつづけ、多様な国際社会や地域社会で、自らの研鑽の成果を生かす研究者・指導者・職業人として積極的に貢献することができる。
 - (2) 東洋の文化を基礎として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容
 - (1) 「中国文学」「中国史学」「中国哲学」の3領域から専門分野を選択し、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」のいずれかを中心に学ぶ。
 - (2) 演習科目群では、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」といった科目の履修を通して、研究テーマの設定、文献読解力、文章表現力を育成する。
2. 教育方法
 - (1) 演習科目、研究指導等の少人数科目を利用し、インタラクティブな教育を実施する。
 - (2) 成績評価をもとに、自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。
3. 評価方法
 - (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、中国学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって測定するものとする。

(2) 2年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の分野に関して基礎的な知識を持っている。
- (2) 中国文献の基礎的な読解力を有している。

2.

- (1) 根拠に基づいた論理的な思考ができる。

3.

- (1) 東西文化を融合して社会に貢献する意思がある。

中国学専攻博士課程前期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		AP1- (1)	AP1- (2)	AP2	AP3
前期一般方式	筆記試験 (外国語・専門)	●	●		
	面接試験	●		●	●
前期社会人方式	小論文	●		●	
	面接試験	●		●	●

文学研究科 中国学専攻 博士課程後期課程

教育研究上の目的

文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、前期課程の教育課程をさらに発展させ、より高度に中国の文化を専門的に研究することにより、この分野における専門的職業人としてふさわしい十分な研究能力を修得することを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（中国学）の学位を授与する。

1.

- (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において高度な知識・技能を有しており、国際的かつ学際的に活躍するために必要な知識を身につけている。
- (2) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野や中国語の文献を読解し、的確に言語を使用することができる。

2.

- (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において自ら発見した重要かつ未開拓の課題を学術的な観点から多角的かつ批判的に考察することができる。考察により得られた知見や意義を議論や論文などを通じて論理的に表現することができる。

3.

- (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において幅広い関心と問題意識を有し、多様な国際社会や地域社会で、自らの研究の成果を生かす高度な研究者・専門的職業人として積極的に貢献することができる。
- (2) 東洋の文化を基礎として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化を創造することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 「中国文学」「中国史学」「中国哲学」の3領域から専門分野を選択し、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」のいずれかを中心に学ぶ。
- (2) 演習科目群では、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」といった科目の履修を通して、研究テーマの設定、文献読解力、文章表現力を育成する。

2. 教育方法

- (1) 演習科目、研究指導等の少人数科目を利用し、インタラクティブな教育を実施する。
- (2) 海外での研究を推奨する。
- (3) 成績評価をもとに、自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、中国学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって測定するものとする。
- (2) 3年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、（または博士課程後期課程）は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
 - (1) 中国文学・中国史学・中国哲学の分野に関して高度な知識を持っている。
 - (2) 中国文献の高度な読解力を有している。
2.
 - (1) 根拠に基づいた論理的な思考ができる。
3.
 - (1) 東西文化を融合して新しい文化を創造し、社会に貢献する意思がある。

中国学専攻博士課程後期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		AP1-(1)	AP1-(2)	AP2	AP3
後期一般方式	筆記試験 (外国語・専門)	●	●		
	面接試験	●		●	●

文学研究科 英文学専攻 修士課程

教育研究上の目的

文学研究科英文学専攻修士課程は、学部で培った知識をさらに専門的に深め、英米文学、英語学、英米文化を中心に各人の研究能力を学際的な視野に立ち高めることを目的とします。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

文学研究科英文学専攻修士課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（英文学）の学位を授与する。

1.

- （1）英米文学、英語学、英米文化の各分野における深い知識を修得し、文学、言語、歴史、文化を総合的に理解している。

2.

- （1）英語の読解力、作文力、運用力を学修し、人間文化、地域文化、言語文化の領域における研究内容を適切に理解し、高度な思考により判断して、的確に自己を表現する能力を有する。

3.

- （1）文学作品の鑑賞力と批評力を養い、言語文化に関する鋭い分析力と異文化に対する広汎な受容力をもつ高度な職業人として積極的に社会に貢献することができる。
- （2）国際社会に対して広い見識をもち、創造的に貢献することができる

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科英文学専攻修士課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- （1）演習系列、「英米文学」「英語学」「英米文化」の3つの分野からひとつを選択し、「演習科目」を中心に専門分野を学ぶ。
- （2）講義系列、「英米文学」「英語学」「英米文化」から専門分野に関連する「特殊講義科目」を選択し演習科目との関連で広く深く学ぶ。
- （3）研究方法論では研究の進め方・英文論文作成法を学ぶ。
- （4）演習系列の専門分野の修士論文をまとめる。

2. 教育方法

- （1）「演習科目」系列は、少人数による専門分野の研究を双方向による集中的な形式で実施する。
- （2）「特殊講義」系列は、専門分野の研究内容を広範囲にわたり学修する。
- （3）修士課程在学中は専門分野によってイギリス、アメリカ等への海外留学を推奨している。
- （4）指導教員と共に専門分野の学会の発表会や研究会に参加する。
- （5）年間計画には研究分野の成果を発表する学内研究会の機会を設けている。
- （6）学内の英文研究雑誌『Paulownia』を作成して公開する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた、形式的評価として、毎学年、専攻科主任と指導教員との面談により、指導状況等を確認する。
- (3) 2年間の総括的な学習成果として、指導教員（主査）、副査教員（2名）が、修士論文口述試験の際に論文の内容を評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科英文学専攻修士課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 英米文学、英語学、英米文化を研究するのに学部で培った十分な基礎学力を持ち、専門的に高度の知識を習得することができる学力を有している。
2. 文学作品をよく鑑賞し、異文化圏への正確な理解と判断によって自己の課題、社会的課題を意識しその対応方策について考え創造的に表現できる。
3. 英語圏の学問に対し厳しさをもち、その喜びを感じて研究活動に取り組み、高度職業人として社会に貢献する意欲を持っている。
4. 英語を通じて学修する高度な専門技能を海外留学により更に深め国際人として社会に貢献する意識をもっている。

英文学専攻修士課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		AP1	AP2	AP3	AP4
修士一般方式	筆記試験 （専門）	●	●	●	●
	面接試験	●		●	
修士社会人方式	筆記試験 （基礎英語）	●	●	●	●
	面接試験	●			
修士推薦方式	書類審査	●		●	
	筆記試験 （基礎英語）	●			●
	面接試験	●			

文学研究科 書道学専攻 博士課程前期課程

教育研究上の目的

文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、漢字文化・仮名文化に立脚した書の本質をグローバルな視点から解明し考究する「書道学」の理念に基づき、高度な職業人の養成、高い見識をもった研究者・教育者・書作家の育成、国際交流の推進など、学内外の要望に応えられるような人材を送り出すことを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文および修了作品が審査のうえ合格と認められた学生に、修士（書道学）の学位を授与する。

1.
 - (1) 書学と書作の両分野における深い知識と高度な技術を修得しており、日本および中国古典を主とした様々な文化を総合的に捉えることができる。
 - (2) 古典中国語（漢文）および古文の読解力を有し、的確に言語を使用することができる。
2.
 - (1) 中国および日本の書作品を鑑賞し、批評・分析できるとともに、それを他者に的確に伝えることができる。
 - (2) 自らの考えをまとめ、作品や論考などにおいて豊かに表現することができる。
3.
 - (1) 「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って、主体的に専門性を深めることができる。
 - (2) 書をめぐる東洋文化に立脚した東西文化の交流を図ることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」の5領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として2年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。

- (1) 高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。
- (2) 専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置している。
- (3) 関連科目には、近接の学問分野の科目を置き、さらに外国語科目も設置している。
- (4) 研究能力を養成するために演習科目を設置し、修士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎となる文献の読解を行う。また、修了作品においては、作品制作の指導および創作の基礎となる古典の臨書および鑑賞を行う。

2. 教育方法

自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。

3. 評価方法

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げられた能力の達成状況を、書道学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文および修了作品等の結果によって評価するものとする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- （1）書学と書作の両分野において、学部で培った基礎的な知識と技能を持ち、専門的に高度な知識と技能を修得するための学力を有している。

2.

- （1）書学や書作に高い関心を抱き、広い視点から書をめぐる文化の諸問題を究明するため、自らの課題や社会的要請を意識しながら創造的に表現することができる。
- （2）現代社会における「書」の文化的役割や機能を深く理解し、社会人として優れた表現力と判断力を持ち、国際人として積極的に活躍することができる。

3.

- （1）「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って専門的に追究する意欲を持ち、関連する高度職業人を目指している。

書道学専攻博士課程前期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
前期一般方式	筆記試験 （外国語、専門）	●	●	
	実技試験	●	●	
	小論文	●	●	
	面接試験	●	●	●
前期社会人方式	筆記試験（専門）	●	●	
	実技試験	●	●	
	小論文	●	●	
	面接試験	●	●	●

文学研究科 書道学専攻 博士課程後期課程

教育研究上の目的

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、漢字文化・仮名文化に立脚した書の本質をグローバルな視点から解明し考究する「書道学」の理念に基づき、中国書学、日本書学、書跡文化財学のトップリーダーの養成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（書道学）の学位を授与する。

1.

- (1) 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかの分野における専門的職業人としての高度な知識を有し、中国および日本の古典を主とした書をめぐる文化を総合的にとらえ、異文化交流におけるリーダーシップを取ることができる。
- (2) 古典中国語（漢文）および古文の高度な読解力を有し、的確に言語を使用することができる。

2.

- (1) 文献の高度な読解力と作品の精細な観察力をもとに高い分析能力を持ち、論理的に考え、表現することができる。
- (2) より高度で専門的な知識を有し、書の文化を総合的にとらえ、社会人としての優れた判断力と表現力によって円滑に研究を遂行することができる。

3.

- (1) 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って主体的に専門性を深め、社会の要請に応じて指導的な役割を担うことができる。
- (2) 書をめぐる東洋文化に立脚した東西文化の交流における中心的な役割を担うことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」の3領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として

3年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。

- (1) より高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。
- (2) 専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置している。
- (3) 研究能力を養成するために演習科目を設置し、博士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎となる文献の読解を行う。また、学界に通用する緻密かつ独創性のある博士論文の作成を目指す。

2. 教育方法

自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。

3. 評価方法

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げられた能力の達成状況を、書道学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- （1）書学・書跡文化財学について、博士課程前期課程（修士課程）などにおいて修得した知識や技能を持ち、博士論文を執筆するために十分な学力がある。

2.

- （1）学際的な視野をもって書をめぐる文化の諸問題を究明するため、自らの課題や社会的要請を意識しながら創造的に研究に取り組むことができる。
- （2）現代社会における書の文化的役割や機能を深く理解するとともに、社会人として優れた表現力と判断力を持ち、国際人として積極的に活躍することができる。

3.

- （1）「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って専門的知識と研究方法を身につけ、多様な場面において指導的な役割を担う人材となることを目指している。

書道学専攻博士課程後期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
後期一般方式	筆記試験 （外国語、専門）	●	●	
	面接試験		●	●
後期社会人方式	筆記試験（専門）	●	●	
	面接試験		●	●

文学研究科 教育学専攻 修士課程

教育研究上の目的

文学研究科教育学専攻修士課程は、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を身につけた、社会に貢献できる教育学研究者や教員の育成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科教育学専攻修士課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に（修士）の学位を授与する。

1.
 - （１） 教育学・心理学・福祉学・芸術学等の各専門分野における深い学識を修め、その専門分野における固有の知識の社会的意味を深く理解している。
 - （２） 広く教育に関わる研究上の諸技能や実践上の対人行為における諸技能に習熟し、自らの見識のもとにそれらの専門的技能をもって社会に貢献することができる。
2.
 - （１） 広く教育に関わる専門的な諸課題について、幅広い知見に基づいて論理的に思考し、専門家としての判断を下し、その課題把握から結論に至るまでの的確に表現できる。
3.
 - （１） それぞれの研究課題のもつ社会的な、意味連関を明確に意識し、それらの課題の究明に意欲的に取り組み、その成果を高度に専門的な職業人あるいは社会人として積極的に生かす実践や研究を持続的に行う姿勢をもつ。
 - （２） 多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を探求し活動することができる。
 - （３） 多文化共生に関する諸問題について広く関心を持ち、学問的に探求することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科教育学専攻修士課程は、終了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- （１） 本専攻では、院生の研究関心を最大限に尊重しながらも、深い人間理解と幅広い歴史的・社会的視野に立脚した教育学研究を可能にすべく、教育学、心理学、福祉学、芸術学を横断的に学修することが可能なカリキュラムが組まれている。
- （２） 本専攻の「専攻科目」には「研究指導科目」と「演習科目」があり、それぞれの「演習科目」に対応した「関連講義科目」を開講している。「演習科目」と「関連講義科目」は選択必修科目で、各自の研究関心に応じて選択して学修する。「研究指導科目」は必修科目で、2年間継続を基本とする。
- （３） 同時に「専攻科目」には、1年次の必修科目として「導入科目」があり、様々な専門分野を総合的に学修するための「教育総合研究」が設定されており、全院生が共修する演習科目である。

- (4) 多様な関連講義科目である「特殊講義」がおかれており、自分の専門分野に深く関わる諸科目のみでなく、広く選択履修することができる。

2. 教育方法

- (1) 「研究指導」および「演習」は、個別の教員による各院生に合わせた個別指導と少人数演習方式で行われる。
- (2) 「教育総合研究」は通年科目で、2つの内容で構成されている。第一に、オムニバス形式で、本専攻に所属する多様な教員の専門分野の研究方法のエッセンスを学修する。第二に、1年に3回、集中講義形式で全院生が研究発表を行い、分野を超えた研究交流を行う。
- (3) 「関連講義科目」は、その名のとおりそれぞれの専門領域の特殊課題に関わる講義であるが、いずれもかなり人数限定的な授業となり、実質的には演習形式が採られることも少くない。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた素養の形成的評価を意識して、各年度末に専攻全体での授業カンファランスを実施する。
- (2) 修士課程の学修成果の確認を共有すべく、専門領域を異にする3名の教員によって修士論文の審査評価を行なう。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科教育学専攻修士課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜によって受け入れる。

- 1. 広く教育に関わる基礎的な知識を有し、自らの問題意識を深く追及するための読書力・語学力・情報収集力・論文執筆力などのもととなる基礎的諸技能を身につけている。
- 2. 自らの問題意識を社会的に意味づける判断力を有し、それを研究課題として他者にも説明できるよう一般化する思考力や表現力を備えている。
- 3. 自らの問題意識を学問研究として深く追究するため、先人の仕事に学びながらも、あくまで自分の頭で考え抜こうとする態度を有している。
- 4. 次のような人々を受け入れる。
 - (1) 教育学関連の学部・学科を卒業し、先進的な教育実践者や教育研究者を志している。
 - (2) 留学生で、日本や自国の教育について高度な研究や実践を志している。
 - (3) 市民として、教育関連の活動や事業のリーダーを目指している。
 - (4) 現職の教員で、教育研究を深め、またキャリアアップを目指している。

教育学専攻修士課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		AP1	AP2	AP3	AP4
修士一般方式	筆記試験 (外国語、専門)	●	●		●
	面接試験	●	●	●	●
修士社会人方式	小論文	●	●	●	●
	面接試験	●	●	●	●
修士推薦方式	書類審査		●	●	●
	面接試験	●	●	●	●